庫全書

子部

欽定四庫全書

御定湖鑑類函卷一百五十五

主事臣祁韵士覆勘詳校官內閣學古史其圖

終發監生臣襲 果終於官檢討臣何思 培

又正JOBE AILTO 一个年定洲鱼领函 明堂植堂堂 明堂 はおいては、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmの がある。 * 賀 朝 执會 矩夏后氏世室堂脩 此堂着日靈府赤日文 贵 其帯 增文獻通考曰黄 聘 所制 附 乃 詳漢 在武 帝 時

多分でたる言 室 各两 也墙 廣 室 = PEJ 居室 面南 堂三 明 四 典 凡室二雄 宮 各面 四 脩 步四 堂 分門 Ξ 尺正 之二 三 度 殷 也堂 ----人 四旁 崇岩 九 益世 重 尺 尺 九門 以室 髙 大 堂明 有夾牕 屋 之 堂 周堂 也寢 步侧 四宗 方 筵 堂 と 上 分廟 度明 四也 也 東 俑 尺堂 六為 脩也卷 阿脩 以政 筵教 西 東取 尺五 之页 岩七 七尋堂崇三尺 户五 五十 今尋 度 西教 旁室 之 為 室 九 室 筵 音每 十於 步泉 五四五 則以五 一中度 南 有室 注文 是步 JE. 四五 有 堂 三行十堂 北 屋六 步 两 南 アス 七脩 と 重尺 隐四 尺也 四 蓰 È 几 四 屋则 尺北 益 步 三 室三之 阿 堂 堂 半 廣 四 複其 四 盛 上度 崇 重 也步 也步 笮廣 屋 室 廣 以屋 二姓 也九 專 堊灰 屋重

堂方一百一十二尺室中方六十尺牖高三尺門方十 六尺東方曰青陽南方曰明堂西方曰總章北方曰元 子負斧展南向而立 大戴禮曰明堂者凡九室一室 也外水名曰辟雅總三十六户七十二牖 而有四户八牖以茅盖屋上圓下方所以明諸侯尊里 九尺之筵 **原周禮曰夏后氏太室殷人重屋周人明堂度有** 禮記曰昔者周公朝諸侯於明堂之位天 周書曰明

建宫中度以尋野度以步金度以,動室中舉謂四壁

| 大下日日 | LET | 御定湖盤額函

金万里月 台書 上帝明天地統萬物也 堂中央曰太廟左為左个右為右个太廟為世說 靈感天地正四時出教令崇有德彰有道褒有行 南火西金北水土在其中泰為九室十二階各有所 經援神契曰明堂者天子布政之宫上圓下方八總四 釋例曰告朔行政謂之明堂 蔡邕月今論曰明堂者天子太廟也所以宗祀而 在國之陽 三禮圖曰明堂者周制五室東為木室 卷一百五十五 禮含文嘉曰明堂所以通神 五經異義曰明堂在

國馬 通水水環宮垣為複道上有樓從西南入名曰崑崙天 國之陽三里之外七里之内堂總四圍以地就陽位也 之牖有堯舜無紂之像而各有善惡之狀與廢之戒焉 太學所以教諸侯悌 白虎通曰禮三老於明堂所以教諸侯孝禮五更於 又曰周公相成王抱之而負斧戾南面以朝諸侯之 |黄帝時明堂圖圖中有一殿四面無壁以茅蓋屋 漢書曰上欲治明堂未曉其制度濟南人公玉 家語日孔子觀乎明堂想四門

た NLI DIE Airlin 一 御定湖極類函

我为口屋有意 宗室子九百餘人助祭畢皆益戶賜爵及金帛 黄帝曰合宫有虞曰總章殷人曰陽館周人曰明堂 漢記曰元年營造明堂辟雅靈臺此即明三事不同也 子從之 淮南子曰古者明堂之制下之潤濕不能及也上之霧 告善之旌湯有總街之廷武王有靈臺之候 盖今亦具說也管子曰黄帝立明堂之議舜有管子以為明堂管子曰黄帝立明堂之議舜有 又曰元始五年正月祫祭明堂諸侯王列侯 重量候望之所三輔 黄圖堂辟雅重臺三事不同明 卷一百五十五 尸子曰

ここで主ノニア 一町定料監頂 從其色以效四方天稱明故命曰明堂 堂布恩致令以撫百姓也 譚新論曰王者造明堂上圓下方象天地為四面堂各 之明堂辟雅圓如壁雅以水異名同事其實一也 日孝武封岱宗立明堂于太山汶上 道之堂也所以順四時行月令宗祀先王祭五帝故謂 露不能入也所以餐上帝禮思神示人知節也 春秋日越王召范蠡而問孤竊自欲以令日一登上明 三輔黄圖曰明堂者明天 徐虔明堂議曰 蔡邕禮樂志 吳越

銀定四庫全書 階東西北各二階而為九階矣盖五室於内其外别之! 北元堂皆分左右个與太廟則五室十二堂矣明堂位 前中階門間實階旁四門而南門之外有應門則南三 其言脩廣崇蓋皆互備鄭康成曰夏堂崇一尺商堂廣 九尋理或然也月今中央太室東青陽南明堂西總章 日或以明堂者文王廟周時德澤和洽萬茂大以為宫 名為萬宫 堂在國之陽國門之外一堂九室四門八階 增陳氏禮書曰夏殷周制漸文堂漸 卷一百五十五 禮 廣 論

以十二堂通之以九階環之以四門而南門之外加以 とこうことここと 即定開盟順函 應門此明堂之大畧也大戴禮白虎通韓嬰公玉帶淳 七十二牖上園下方公玉帶謂為一般居中覆之以茅 也何則聽朔必於明堂而玉藻曰聽朔於南門之外則 于登桓譚鄭康成祭邕之徒其論明堂多矣特淳于登 之外則明堂在國之外可知然大戴謂九室三十六户 以為在國之陽三里之外七里之内其說蓋有所傳然 堂在國之南可知成王朝諸侯四方之君咸列四門 五

眾之以水設之以複通之以樓鄭康成謂明堂太廟路盛定四庫全書 1 寢異實同制非也宗廟居姓門之内而教學飲射於其 子路寢見於書亦東房東西夾又東序西序東堂西堂 哉諸侯之廟見於公食大夫有東西堂東西夾而已天 寢具實同制祭邑謂明堂太廟辟雅同實異名豈其然 中則莫之容處學者於思神之宫享天人於神思之室 而已則太廟路寢無五室十二堂矣謂之明堂太廟路 則失之濟本准當考之矣則謂之明堂太廟辟雅同實

堂有功臣登事之事乃有同實典實之論是不知諸侯 堂而民知孝是也不特建之於内而外之四截亦有之 為青陽夏為朱明秋為白藏冬為元英故各以其義名 有太廟無明堂特魯放其制晉放其名也四時之氣春 明堂之作不始於周公而武王之詩有之記曰祀乎明 四時之堂左右之堂曰个以其介於四隅故也中之堂 異名非也彼蓋以魯之太廟有天子明堂之飾晉之明 日太廟以其大享在馬故也古者鬼神所在皆謂之廟

|次に写真なはる||一一一一一一一一一一一

祭萬世不遷者也 孟子之時齊有泰山之明堂是也首子强國 金グロろん 曰嚴父莫大於配天以周公有聖人之德而文王適 郊者也太宗則周之文王配祭於明堂者也此二配 統之祖有聖人之德者配馬太祖則周之后稷配於 以始封之祖有聖人之徳者配焉明堂之祭以創業 非謂凡有天下者皆以父配天然後為孝也近 侯 见殆 文可 通漢 有 考 司馬光呂誨議祀無豐於妮孝經 卷一百五十五 英宗治平間錢公輔議郊之 一於塞外

堂太廟北之東即東之北為元堂右个北之西即西之 總章左个西之北即北之西為總章右个北之中為元 之南為青陽右个東之北為青陽左个南之中為明堂 某竊意當有九室如井田之制東之中為青陽太廟東 禮以真宗配馬二條俱 為明堂右个西之中為總章太廟西之南即南之西為 太廟南之東即東之南為明堂左个南之西即西之南 朱子曰論明堂之制者非一

祀明堂皆以父配於五帝此乃誤識孝經之意宜遵舊

<u></u>

遺意此恐也是 祭故謂之天祭於屋下而以神祗祭之故謂之帝 上帝帝只是天天只是帝却分祭何也朱子曰為壇而 廟太室則每季十八日天子居焉古人制事多用井田 之右个乃青陽之左个也但隨其時之方位開門耳太 其左个右个則青陽之右个乃明堂之左个明堂之右 北為元堂左个中是太廟太室凡四方之太廟異方所 个乃總章之左个也總章之右个乃元堂之左个元堂 問郊祀后稷以配天宗祀文王以配

金グセルクラー

卷一百五十五

莫知所決而遂止愚謂五室取五方之義也九室則 こうしい 一一甲目用監領国 肅然清淨王者朝諸侯出教令之時而後居馬而亦可 大戴禮謂明堂九室前代欲建明堂者往往感於二説 以文王配之者此也説者乃以明堂為宗廟又為大寢 祀天地交神明於此地無愧馬周人祀上帝於明堂而 又為太學則不待辨而知其謬矣考工記謂明堂五室 王者所居以出教令之堂非常居也其制必凛然森嚴 日明堂想只是一箇三間九架屋子 楊氏曰明堂者

原 之説 鄉順 營人 月 阿 方之外 令之説 五 故 承 有據 府 宮帝 九室 明 堂二 布者 天 而 政承 則 九 必 四周 通见 房 統 為 備 頒天 阿禮 考 文 物 常立 岩段 獻 天尚 十二室可乎此又不通之論也 四 租分油 以桓 複帝注書 隅 承譚 四四 廟之 天帝 也然王者 天新 柱阿 重府有 百五十五 屋是 行論 也重 五驗 屋 化王八為帝日 也者題天集帝 下鄭 居 詳康 造 九舟 明 居者 堂少 總成 明 太承 房 下 辞堂 規張微天 論注 順 總辟 天衡降立 論雅|矩東|精五 月 四 今 闥 惟 所 地京以府 信 授賦生以 時乃 聖尊 如

帝土|地日|布聽| 暢|令法| 令 將周 **克**間比按 政朔 出公 下足 所上| 政五 學 於朝 舜素|類五| 群以 以群之經 萬 宗諸之與陰經 總营 南 宗總官具 廟侯世越陽禮宫 論建 其論故義 汶 及於是席以樂 稱明 祖 茅 行 行明以皮知傳 上 以王明堂 田之 東堂|三升|宮記| 堂宋配隐堂上 屋 正 熟太代蓋室日立上 之起上晋 或圆 献廟脩與本聖明詳 聽、 |制 居 |帝 書 | 貌 下 到俘與之於之人堂總 朔 國注其紀也方 于明也肯太之|於論|堂上| 學今正瞻 廟堂 古教長 議詳之太中答下 策 以制安三明總南廟者秀群 四 動临作城輔堂論地太太才 總閩 盤 今之南黄天 實極廟東 論布 群也 布 |徳象|許圖|子徐|京既|以日 四春 政 | 茅所|今孝|每皮| 邑以順 圍秋 周 注人|秋顿|屋以|展武|月郊|爽随|天制| |釋客||米法||等帝||於廟||進時||時明| 君 施 例春|禄天|摄議|此明|平明|施堂|

稣定四庫全書 位 陽 原象天地 若康 鎮土 祭五帝 宗 示事 太成 館 祀文王 人不 明 寢注 亦 節 堂三 知文 元堂 者重 者 節木 堂辫 也事 順 享上帝 王 總並 之其 下 A STATE OF THE PARTY OF THE PAR 創 陰 詳宫 制力 論詳 不 圖黄帝 陽 下位 總王 孔 重 論堂 之注 蛮内 祀先王 陽 屋 **基一百五十五** 燥正 之有 濕天正太 正 堂漢 複 不子 位室 四 以書 時 鏤 道 配郊 能之順體 總並 及位陰泉 上祀孔文 脩周 論詳 統萬 上也陽天 帝志 陽選 七禮 尋殷 於 以地 宗 之 物 寒晏 開 堂人 又祀下昭 崇曰 日文| 詳明暑子| 關據 禮三 三重 太王示堂 不春 韩 尺屋 山於節明能秋 鄭堂 入明

歷堂乾所王其 五 ? ? 室 志赋坤據者義 公趾 祖晋 邑竞 颁明五依尊明配紀! 明衛 玉有 帯 脩 諸堂行乃嚴著上瞻 九堂室 211.1 雄 月者 象引之 帝東 **論舜** 上 時 ょ 尋 黄 今明類天居唐也明 取總 鄭 阴 以乎以地而書 堂 周康其章 帝堂 總並 即定棋 為天為四巴禮下所人成尊夏論詳 明上 民道做時其樂群以明日崇世 堂祉 進順 極者像風制志總尊堂五則室 增 圓理 九者 宝 八 大 大 東 宝 八 大 大 東 宝 八 十 六 莫也 氣何推論列度室日皆 注明 少其 大 公堂 乎後 明典本配 玉耒 明漢 天 古音 天 之五取調 姓髙 室 堂書 道 同要 選行 其元 帯旁 律 然於 也堂氣 名濟 明唐 為布 神 则和堂陳也南 尊 R 之政尊晉 日陰疏子 極者交祖裴 明陽黃昻 室容 祖 濟劉 至神 配爾 堂 帝勸 天 日 漢

班應以之而作 直点 既 我发四月全書 成队 固紛納本天樂 ソス 元 魚 明 列连 東日四 下顿 嫡 堂四 都明氣劃服度 教隋 日春 邕赋堂明允 明 1 化牛 明日所明濟 犯班崇弘 堂堂以八明 成固有職 敦 論臺正總堂 五 王東徳日 教 書聖明四以賦 幼都其明 周赋束堂 禮人堂時調移 公覲尚者百 志南統出八穆 調 五十 六明矣通 明面和教風四 風 rŋ 年堂 神五 堂而天化 之聽 正白朝楊 下實 祭天 四虎諸緝詳慮 嚮 時通候熙 備下 合天 於宣|宮地 明 之明 物簡 序堂明皇注出 而 以明 敦者 堂風 薦而 治 五所制 三治 教以禮禮

振英鼓黔雷以播氣運蒼昊而時成括閨陽與泰階襲 皇王之鴻休包宇宙之純精恢天禄以作义攄元命之 **原賦唐劉允濟萬象明堂賦曰脣哲惟唐受天之明究** 能論 發陳根新花臨御陌春色起天園河間獻樂語斯道 宰詰旦乗軺軒四圭邸蒼玉六變舞雲門香浮鬱金酒

原詩梁孝元帝和劉尚書兼明堂齋宮詩曰質明攝

煙繞鳳凰樽貂冕交輝映珩珮自相喧微風颺清管輕

ス.19 .2 M上5 ■ 御定測鑑頻函

多次四月月 云廣四而脩一彼宗周之有制聞或九而或七錯綜乎 天道者也所以明有功表有徳崇大教發大政登假 典經始乎王律紹先志以高興匪矜功而首出乃延 報於元天事神祗以稱秩願平宮而自處唯禮宗而 聖以光亨禮樂交通典談洋溢天以洛視而龜書至 以河觀而龍圖出擁神体尊明號激清流揚茂實將 恤思致美於總章覽娵訾而法營室訪夏后之軌儀 卿士藝人表臣而審其議焉咸以為明堂者明乎 卷一百五十五 文王日本 Alder 一种定洲疆有函 終以布憲施惠下之象地也以列五位之神上之法天 其中非至聖之精誠孰能克勤乎此功 **宁皇穹殿乎懿濞繣兮豐融雷承乾以震耀雲大壯乎** 創 隋 賦曰天子朝諸侯於明堂惟古之制始以講信脩睦 可納四氣明明八牕均調八風靡金靡玉匪磨匪襲 飲脩宗祀非夫為已者也安可已乎粤正月庚午始 明堂之制馬考經緯之長策應黃鐘之旋宮移移 侯之夜光明素質以為工思承天以接神故峻 增唐于沿 <u>+</u>

金グロル人 度拏龍横以蚁蟉亘虹梁而各落終以綺藻施以丹腹 四 闥 南向以布 以堂室之際觀乎萬國來朝威儀濟濟聖乃負斧尿 輝 於尊平慶賜之儀以旌 以四氣而開八牕以八風斯廓祥 配五方之帝左个右个分以寒暑之宜以 皎日戀光曜金牀而难錯於是陳三獻之禮臻 遥眠 高少俯枕伊洛巍巍煌煌厥高不可乎 政百僚端見升而北面以陳禮宴會之節 卷一 T 五 十 於孝悌原夫宅中而起 風布 影對寶檻 遊以 繼

久正日年 ALT 御定洲疆新函 階龍五伯之功遂授鉞於東户夫明堂者明帝之徳體 天為狀必資闡化以準程豈獨弘規而取壯出廣物 東門之外以朝乎九國南門之下將事於八蠻正德是 弘恵風斯布禁溫愚節制度重三台之任乃申命於中 沿襲之路駁既而順斗極運天開皇恩普矣貴賤以 九成之樂申儀於辟雅崇業於太學甄古今之至理議 頌宋虞通之明堂頌曰肅肅明堂惟國之光儀天矩 仰包宇宙而為量惟先聖之是則信百代之所尚 主

金分口是人 盈 銘 在 恤 崇姬潤黃縣殷颺輝 和四主流明 緜 國正陽總閱四設流水洋洋順節行化各居其房 後漢李尤明堂銘曰布政之室上圓下方體則天 幼 教 軌橋憲垂統光圖麗史宗祀既崇事配惟馨六樂 孙夏進賢良秋厲武人冬 謹 福野野化紀摩沈五都風晦千祀我皇孫哉追 殷殷華海鑒盥孚誠慶輝旁燭休光下 卷一百五十五 服夏擅芳無戰伊典有與斯章 閣 梁

欠小り pp / Litelin | 御定湖盤頼函 之其 靈馮 原夏曰清臺 辟 變高 臺相 物改 變時 九所视 經雍 朝 靈臺 律 文例以後 會 始敦 徴 置教 選在觀視 崇上帝 宣國 天氣 聘 臺化 望元氣 **唐太** 民學 臺之文也 在南之 附 殷曰神臺 子講 來 文 登文明上變洪 爰選堂以而範 來子民時 考乃之觀候傳 天子 **休經右休** Ð 周日靈臺 祥月 立 臺 堂尚 崇書王靈 祈褫 上陸者臺 帝機升既 國南 視侵 東宣崇 禳灾 也號 4 堂右 廟秀 臺帝 寧才 望勤 福

金分口匠人可 服 原 曰天子當扆而立諸侯兆 侯戲一 六者各以其服來 諸公東面諸侯西面曰 禮記曰天子無事與諸侯相見曰朝 斾 大夫大聘使卿朝則君自行然此大聘與朝晉文霸 小聘三年一 制也虞夏之制諸侯戲朝周之制侯甸男采衛要 朝 殷制五年一朝 大聘五年 朝 卷一百五十五 朝 面見天子曰與天子當宁 通典曰唐虞夏氏之時四方 朝注比年每歲也小 原周禮曰春見曰朝夏 又曰諸侯之於天子 之謂 增

とこの、とことと 一郎 印定湖礁領画 既 月中乃日日見羣牧 以陳天下之謀冬遇以協諸侯之慮時會以發四方之 **觐四方諸侯各朝於其方嶽之下大明考續黜陟之** 時処考制度於四嶽諸侯各朝於方嶽大明黜陟注 月乃日覲四岳羣牧注云既盡也覲見也言舜盡正 殷同以施天下之政其事可否考 又曰六年五服一 績 侯 則 朝又六年 尚書日

曰

見曰宗秋見曰覲冬見曰遇時見曰會殷見曰同

春朝諸侯而圖天下之事秋觐以比邦國之功夏宗

Ę 多定四月全世 寢之朝亦謂之熊朝太僕掌之四曰詢事之朝在姓 曰中朝在路門外夏官司士正其位三曰内朝亦謂 功注云獻其理國若征伐之功於牧伯也 訓上下之則 小國之免於大國也聘而獻物於是庭實旅百朝 小司冤掌其政 朝在皐門內決罪聽訟之朝也秋官朝士掌之二 通典曰周制天子有四朝 7 义曰宣十四年孟獻子言於公曰臣 原左傅曰凡朝以正班爵之義會 一百五十五 下事之朝非八常言三朝 义曰遂 詢 路 而

欠NJO M定消極類函 左傅曰諸侯五年再相朝以修王命古之制也 會以訓上下之則制財用之節朝以正班爵之義帥長 幼之序 講禮於等示威於衆昭明於神 夏公如齊觀社非禮也曹劌諫曰夫禮所以整民也故 講禮再朝而會以示威再會而盟以著昭明志業於好 **啓題對楚子曰朝聘有圭享頫有璋小有述職大有廵** 又叔向日明王之制使諸侯威聘以志業間朝以 又曰禹會諸侯於塗山執玉帛者萬國 又曰莊公二十三年 ナカ 增

金分口尼台里 皆有朝宿之邑焉注時朝者順四時而朝也五年一朝 政尊平有序各來朝講文德明禮義議天下法制四方 也考禮修徳所以尊天子也 協 哉子之為此來也游吉曰將得已乎昔文襄之伯也其 游吉如晉送少姜之葵梁丙與張趙見之梁丙曰甚矣 務不煩諸侯令諸侯三歲而聘五歲而朝有事而會不 原殼梁傅曰滕侯薛侯來朝天子無事諸侯相朝正 而 盟 公羊傅曰諸侯時朝乎天子天子之郊諸侯 卷一百五十五 春秋說題辭曰諸侯轨

又 n.) 口 und / / 和定洲雄顷西 受度 通就其儀漢七年長樂宮成諸侯羣臣朝十月皇帝董 不朝則貶其爵二不朝則削其地三不朝則六師移之 **備文徳而明禮義也 孟子曰諸侯朝天子曰述職一** 悉法度得無變更所以憲禮正刑一德以尊天子也 珍物以助祭是以皆行聘禮 又曰朝見也五年一朝 义曰聘者緣臣子欲知其君父無恙又當奉土地所生 漢書曰漢王已并天下諸侯共尊為皇帝於是叔孫 白虎通日諸侯相聘為相尊敬也朝聘天子無 ナメ

金次口追合語 官儀曰正月旦天子幸徳陽殿臨軒公卿大夫百官各 向坐大官上食赐羣臣酒食作九宵撤樂 諸劉雜會皆冠两梁冠阜單衣既定上壽計吏中庭北 陪位朝賀蠻貊胡羌朝貢畢見屬郡計吏皆陪覲宗室 禮上曰吾乃今日知為皇帝之贵也拜通為太常 軍三公朝會天子為起住入太常住車口皇帝為羣公 言罷酒御史舉不如儀者引去竟朝置酒無敢諠薛失 出房百官執戦傅警引諸侯王以次奉賀觞九行謁者 又曰大將

阼而道路疾故計遠近為稽留及羣臣惟會帝責之曰 列陸識則服常服設緣竹之樂宿衛列仗會於太極 服庭設金石武實雄頭文衣繡尾 起天子坐方前進 建始殿晉制大會於太極殿小會於東堂會則五時 會於東堂 獨席故京師曰三獨坐 不同也會隨五時朝服庭設金石花頭之衣鴞尾以 魏志曰黄初元年郭淮奉使賀文帝踐 又曰尚書令御史中丞司隸朝 摯虞決疑要注曰漢制會 又曰宴之與會威

次足写事 Alder 御定湖極新函

前 昔禹會諸侯於塗山防風後至便行大戮今溥天同慶 初 而最留遲何也對曰臣聞五帝先教導民以德夏后氏 皆與會語引歸命侯孫皓上殿稽額陳恩謝罪稱萬 戮也帝悦 平天下同其惟豫王公卿士各奉禮稱慶其於東堂 四方賀使國子太學生司徒吏副將以上及吳降 用刑辟今臣遭虞舜之世是以自知免於防風氏 設樂使加於常五月與寅御臨軒大會於太極 晉起居注曰武帝太康元年詔曰江表 卷一百五十五 殿

朝夕傅朝而不夕禮記曰入而夕朝不廢朝幕不廢夕 在前少傅訓從在後太子入崇賢門樂作太子登殿西 今拜公於太極殿亦宜因以小會蓋所以崇室輔也 承華門設位拜二傅二傅交禮畢不復登車太傅訓道 又曰穆帝升平二年正月朔朝會是日賜衆客酥臨酒 東宮舊事曰正會儀太子著遠遊冠絳紗袍登輿至 又曰太常張華止按舊事拜公建始殿因以小會 增柳宗元曰古者旦見曰朝暮見曰夕詩莫肯

次上日五十人上上二 一 御定州益新西

九

原考績 晉叔 ATTA DIE ATTE 鍞 閩 夕知襄子為室士出夕皆暮見也漢儀夕則 缶 康粞 朝會二 向夕楚右尹子草夕齊子我夕趙文子藝其禄 拜謂之夕郎亦出是名也 成以 朝臣 示威 注除 獻 功 惠邦 上 惡國 總並 · 臣群 明義 論詳 于總 圖事 敝 卷一百五十五 所上 以祥 過 土 而左 興總 除思 廵 執思德論 功 玉吳明 帛都 義春 總並 者赋考秋論群 聘詳 以總 講 結論 两 禮 諸 郞 先氏 也會 侯周 張 向 述 者 之禮

久 堂公|不氏| 其從為見論總 方之 已四种合的 者朝|失其| 奉 凶其煙之 之髙 命 朝 珍皆時日命 明諸舊昌 軌會 會 物小命小以 阜 諸侯 政 则四 事 國不適政 侯於下於 起左 聘 之明 群晋 將傳 之然 大禁 一 御定淵盛類 供 附 尊堂 總子 歸晉福則有之 禮 職 平之|論解|時韓|也重|五事| 貢 也位 事宣馬其惡 正 |於子|用幣|赦左|卿周| 明 刑 訓 宰 聘 作帛其傳以禮 上 函 總並 旅於煙以罪子聘鄭論詳 文 無周以賀|戾産|禮康 徳 即 |他王|昭其|講相|宋成| 算 制 事傳其福 其鄭梅注 明 矣諸 褐而 政伯天五 度 王事 事以于服 禮上 弔 主 記詳 聞對 供如天諸 JE 總並昔總之日歸 班 |其楚|子侯| 時 者論日晉 論詳 職舍以皆 事 韓士 周 | 貢不| 禮使 並耗

金 父鄭|行朝|輅職|九以| 原 帝鄞侯位 グロ 黄 出 **宛注|人天|也道|旗朱|** 紀宮 不以 帝 子小職子上車之飾道後之於明 质 立聘 凡親以戴通勒 直 元朝宗堂 合宫 याना 日日諸與朝雄帛而 異周 二按 廟之 世問侯之夕鄭以已姓禮年周避禮 周 凡殷之合無注朝其以巾春康王儀 君中邦忠出道以典封車正王也朝 公 即也交信入車日及鄭職月朝諸 明 堂 位人成者 象视線注象朝赭 卷 康 大無|相正| 朝以象輅諸侯 管 চ 五 國事問君 重 異五 翰朱 侯於 王 禮子 酆 法姓采以类於酆 朝义也臣 明黄五 馬于殷重度王嗣象櫻甘宮宫 堂帝 小般相法 |甥飾|飾七|泉 位有 漢 國朝晦度 正舅之諸就宫漢 鄭合 武 徳 武 注宫 而|末建| 聘者也也 甘周以 刑 周七 象大 馬交世 此相相周諸白禮成格赤建泉 公聽 皆聘朝禮侯虎司大無以 大 康左 攝政 所也也大來通常赤鉤朝赤有傳王也

炎之四軍全营 財 朝注 朝 也以 重君|禮享|為侯| 重 禮子聘幣重相 謂殷|即禮|必習 禮 朝 也于|禮也|禮勵| 之猶 位記 擇禮 會 多玉多受禮以 殷泉乃四 有考 多貨 同也來塞 之比省之必輕 道義 四 則德則為親財 聘 其十|朝謂| 之正 是馬傷輕之重 傷成二告夷國刑 附 御定淵鑑 主朝於財不義 德 四歲至服而德 於聘徳者可則還禮方王 鎮就以 修尊 货之按财以民主聘諸者周服 莿 傷禮鄭可巴作璋義侯不禮蕃之天 强 败以注過之讓此以與飓職服耳子 其為|貨復|有矣|輕主| 廵狩|方在| 四 徳瑞|天重|遥按|財璋|狩則|氏四| 塞 地期復鄭而聘同六王方 告 所反之注|重重|也服|殷為| 同嚴 化幣也用禮禮 畫 至 亦塞 Ī 生是|財之|之也| 謂也謂還義已聘以如者 服 壁之也聘 王 下 之新 盍 輕 也儀琮皆諸而 鄭君

金 原 正 漢編亦之 侯禮 及之 夏珍 アプロ 奠 位 儀入位處王待四有後朝 又見也表上之夷禮夷部壤 五辨 | 站位| 外儀| 狄議| 服諸 脩 設天 とうず 制百子交從次而宜陸班奉 有侯 珍 戟之赭不如下次 辟之|脩正|華始| 其君 燈復 内諸里有年書 位 禮宜侯德司 **场**一 班臣乃此設 制之名制燈網待王充曰奴二 與位 諸 | 交魏 | 客位塞聖四臣奉 王 計魏战世會禮下單人韓衛百 四 鄰禮史武义語 表後蕭丁之邪敢五十 和 交記前都顕舊著朝不望簡禮單執五 見 受都 而制定會至之 風先 于壤 詩 |戒正|後三|會禮|不以奉京|執莫 九 教會前公有之為為珍師五 儀 和敢 於文太獨表經叛聖朝後原漢 见不 階昌祖共注也臣人賀諸 塞宣 下殿|将入|定 |宜正|自夏|願帝| 服 於王 用|討見|列朝|以朔|古先|奉甘 周 |人大| |張計|位有|客不|未諸|國露 以行

賜 月諸 则上 作司 諸生 次 色徒 氣 拜後 簽有 几 功 侯共 杖 大吕 謝漢構直 定 朝起 見 吉蓋 陵梁 飲言 位 百朝 問 陵冀酒者 云奏 設 儀不帯 官儀 鸑 云酺 下張 켬 戮 各習 審霍應劍 槙 遂位酺酺 儀 御定淵 融光因入 防 務漢 東三 因字 以之 次月 陳將每初省風 以文免司责孟 極陳餘 徳帝 列 會出奏尚 知讓侯 画列會朝漢 大入詔書 劾 化吳 論公稱為 十位高軍下以張 视 王語門其太 蓮 晉濞入宜 都尉 后失殿一陵 权欲遣進成呵風禹元訴公屏語典 孫差|從止|俸叱|氏會|會病|門氣|不司 |通次|事有|贖今|後諸|設不|鞠以|遊隸 載. 與列 問常 罪出 至侯 白朝 躬 領 酺 晏 弟侯|會度| 禹於獸賜如詔遂稱 Ī 子功见 進 |乃塗|樽之|也命|発共 ᅶ 段山於几 王 徴以之後 反 叱謝 有 之防殿杖

每分四月 全世 聲子 大 臚 安受子疾 迎 與法| 鳉至| 行下 司 不拜上息親以病魏 其掌|鳉止| 士 超不 疏禮 答為 朝鍾 **今告** 鹭 鴻上 陳其 類 教名 新過之故 見縣 呼 **敷委** 脏口 拜 不其事皆明 賜 積 句 後 使帝 不後 之餐牽 儀膳 名漢 劍 諸後載時 諸 行經包 履 王漢典有 祖獻 廬 傳成 入伙 倭 上 入東車疾 圕 傳有為 殿 王食 朝平虎拜 門家 至 大司疑大 乗 轉王贯起百 以養身不五十 乗车 ソ人 行士輒鴻 几 墨 君 [] 本造臚 杖 入口 杖 革入上便五 墨賜 車 車之 迎朝殿時 屏 至民就華 鸞 傳屬 黄進 誉 廷周 斜 注以門見上漢省至坐敢 會禮 庭屬傳鞭造賜殿韶閣升是亦 同字 |燎羣||語呼||含以||入蕭||乃殿||後以 宵夫 釆 而儿朝何下乃三高 客掌之也告題 章 |下朝|問杖|不劍|養拜|公年 以凡光 入超履以天有疾 禮朝君詩曰

侯詩 未割 傳問 後 113 FEELS 觏徒 將小 叔從 至 駿 明 奔 生 朝雅 百甕 视聚 者 肉 则夜 宥橹 趨 朝 公也 可咖 客有 晉人 貌朝 밁 烜何 鳳 衣相 致注 釆而 陳 以其 闕 物翔 館具 啟 静為 儀 即定溯 物夜 將者 館 功 榖 就 百未 二醯 滋誅 日供 F 於 **國**枚央 通 并 庭 之 丰 云也 四 出 是 百 列 鵷 并庭 朱 凳 注 左 有 玄 行 而燎 ō 相 傳 客 下 東之 爿 出翔 館 之光 客 计 儀謂 欙 端 聘以 浴為 設注 無 禮四 Ŧ 旒 展 於庭 謁 敢 賔 面 庭 闡 門燎 負尿 ڃ 禮 燎 庭 内 大 儀日 致 周 Ī 氏 禮 臸 也燭 負具 賔 圈 黼 客野 館 也 牽沐 有

動定 者曰越雅神 以絡 后 息玉記絲射禮 中天|裳韓|宗虞|殿興|春四|待漏|北帻| 凡春 四月全書 國無國侯|率書|狹朝|秋朝|漏猶|關雞|封官 有烈|周入|百正|不智|傳敦|之滴|向人|團司 聖風公觀官月鳴權非奏際撤陽報命几 人雷居以告朔|鞭於|天以|相蓋|東晚|諸蓮 乎 雹|攝其|帝旦|他崇|子言|君下|方壽|侯凡| 六个|之受|如政|不明其車|未尚|王大 意 年重初命故殿旅試有于明衣位朝 於事行見以思爲相方段題卷 越注 裳介 之諸功乎偃君進黼大百、 以主 侯 至翠依黎 圭 覲 三卦 四 止雲 五 羣 朝 泉主 A 傅 馈裹 警 觐 牧 重也 噦 旅 譯 鸞宋 率 隝 見 重 來交 聲王 鞭 朝趾 虞 金元 漏 百 官 观書門之早唐 獻之 聚上 群 将 五 未 待 白南 朝 |類上 朝王 宋類屋 大詩| 聚詳 詩維 雉有

東夷|諸位|之底|接天|者有|紅五 上之|子昨|間為|早下 也仁繆存 聖 愛 六國 民愛 之階 周谷以也 1 戎東|國之| 南 公文小四 其五 會 7:11. 之門門東于屏為寸 天得者 面 東西前風貴者子 國之 其得 民禮 執 死於不大 西外北面立於也以 剪 駉 門西面北馬户 冒 鄭天與傳 定渊 之面|東上| 牖 諸周注下馬聖 負 極順 外北上諸 **侯禮所民** 斧 3F 東上諸伯 鄭考先無治南 丞 面 南注工謂不親面 面八 男之 東 南蠻之團 鄉名職木足二而 上之國西 上 **康禮|五天| 追無|報聽|** 五國門階北入南明日子飭不功夫 狄南西之 面三鄉堂 冒執 事驗 之門 北西東公而位言 冒 功者舉所 國之面東上中立天德四也五 北外東面諸階鄭子能寸|存者|四先 門北上北侯之注角覆以 爱一|使者 之面九上之前負針蓋朝察物能五

聘

附

征右退注東上之之冠端服大藻東外分 而毛司留此上鄉位正元也元夫朝上南岸 四月 月詩右宿王太大辨朝端 大辨 面 調小也衛日僕夫其也素」朝天色 全是 當床 月宛太者视大西贵天裳 服 退始 视我 僕未朝右 面賤 子也 火人 然入 朝日從當事太北之諸内視後相而 也斯者仕于僕上等候朝朝又適日立 先邁|小雖|路從|王王|昏路|於皮|小出| 當 王而臣同門者|族南|三寢|内弁|寢而| 宁 制月祭族外在故鄉朝門朝以釋視 क । 五 禮斯僕不之路士三 外鄭聽服之而 十 注朔鄭退 立 使征 御得位門 虎公 五 君鄭僕在王之士北上下|皮於|注適|前益 臣注| 隸王| 族左| 在面| 位| 弁太| 小路| 詳 議我僕宮故南路東| 幹|下廟|寢寢 於日大士面門上等天朝無聽辨 故西之孤職周子服寢政百 政謂 日 為上右東正禮也以也使 始 事日 邁 士按南面朝司朝日釋人 入 日视 晚朝面北儀士服視服視玉禮 有朝 月

徒會其采曰和 有如受服易所 灣在 廟王旅报 脩同致諸十無更 五 歲 鄭金侯五止月 我都深篇 鑣 王 而 征星 淠君 注玉朝升 息有 朝 適貨豐白也所 旅陳毛子 再左 聲前並 傳來 他則於布 朝凤 相傳 * 噦 朝曹行於廟衣 發駕! 淠朝 见 服 噦 鶯林 深言| 以伯朝君則積 皮 h 弁 臺馬動觀 城小 和 俯來會則 聚素 H 鸞 王朝 也日 是以注周 盐 脂也其 嘰雅 夕 ħ 難 命禮 資致 脈為 脈禮 旅 宿車 徐庭 山 命 行燎 蒯 難古也猶馬音家 朝司 星 萬小之諸用資視王視服 篇 彼 有 渚 陳節 掌 内職 毛福雅制候也於 团 也傳收製也五 致 外毗 年| 馬 駕 羽 四 同蕭 朝朝 資 海 言 威 风韵 之则 毛篇 觀傳和 儀 來 五 事皮 將少 承植 年 其在鹭 禮儀適儀 皮升 明應 篇禮他篇 旂 戦戰 元鲁 升服 铅铅 臣君 之鄭 朝 應詩|推小日雖 聘 鳥須

社使 好 曷天可朝 站命 青上 金 笺篇 段 至 上 一 定 正 库 稷祝之為子以聘王為南方為 不能事為則孟之儀壇亦明宮至海 動從 战左 之襄立道 南三西者 四 也來 也來全 祝公子傅上公子號鄉成白木門 不曰言劉無得天解見宫北方|步儀|祁來 出善於文天為下必諸旁黑四四禮泉假學 境乃|公公|子若|故稱|侯一|上尺|門觐|多祁| 官使日合下行將先也門元設壇禮也祁 之子|會諸|無乎|去君| 下六|十篇 鄭人 制魚同侯方曰紀以朝黄色有猪 क र £ 也解難於伯不侯相脾東二侯九 十 君曰|晴召|縁得|者接|之| |尋覲||州 五 以夫有陵恩也不然道 為深於貢 軍视煩謀疾不得則必公壇四天職 行社言伐者得不齊有羊 三 尺子 其九 成加為州州 祓稷|莫楚|可則|去紀|會傳| 社之之將也聚紀無聚古會司方宫之之 公也說之者諸儀明方 貢牧 豪常治會 有馬事諸 侯職 於三 物職 鼓禄|也子| 祝也其行嘉明不相侯则将其百 典

等四 朝職 天朝 曷伯 諸禮 乡 三氏 こりら 諸牡 不禁 夫左 子宿 為以侯經日掌 侯夹 肅慢相傳 皆之為壁 之解 朝諫 師從 秋夹 敬朝 繼 贡 有邑公假行聘廷王|從于 2115 見孔也錯于賦 朝也有許惡難之惡腳是 天衛錯立|朝不|宿諸|天田|而之|客而|行乎 子且立族|史色|之侯|子何|倍禮|鄭養|旅出 曰張族談不玩 邑時 存易 叛廢 注國 從境 Βp 定淵 觐韓|談者|絶好|馬朝|則之|侵則|朝子|臣若 **艦諸侯遠鄭書時** 平 諸也陵君 廷以無嘉 画侯 入其 注 府至 侯易之臣之道事好 朝不之敗之客乃馬之 以觐位慢無公 時以傅朝虛卿 儀 得則起位 濟教 事 見其語謂 月大 之 専其安と 濟之 位 地言 于介也臨 翔六 朝 慢 王圭 詳周也假 朝 翔儀 廷 朝 宿 之 而入 上禮許之 觐 容 聘 贡觐 有 田何 之 貢 色 國于 于 禁 觐 者為 氏周 鯎 之 所王 王 朝周 何公傳公 職禮 不 禮 寶鄭 保保 詩毛 士禮 鄭羊 魯也

滕乃之薛之器 君守 我分四月五章 寐 馬人倭長周侯也而子有 及朝 之日 使所此 知 者 不原用 體三 而 馬不 桓 在論為日主 能可行而孔貢貞 廷官語後山則全以外殼朝子職華 争 不君 寡有 擇 備出 為梁 入林 皆後 供命 人木 侯左 故會 主傳 盛 | 觐園百 言漢優召若工來傳各會馬二 服天詩五 不記在不朝則朝隐以戎耳年 將 人義五 宜議外俟於度多公所危知春 朝 備裁 還還不駕薛之長十長公者公將左|言列| 司北條行不富公一為也應會朝傳國辟 徒虜車矣取有使年名注義戒尚趙命赫 桓生| 禮|與禮|羽春|在知|者於|早宣|羽赫| 諸主 父 滕上仁 行潛 坐子 蓋 虎 庫口 改公 不 任則請侯者義 仁會而風珠臣 言 鹵擇於薛當皆者者 假服輪順

ストラー とこう 駕 儀廷 謝尤選桓 斬曰 賔 帝髙 栭 位周 不 者帝 之 位 Ĵ 馬禮 使皇 皆從 勿 儀 有 右外 赦帝 鄧 門王 不之 九朝 褻 通 至自 通之 忠鄭 士公 棘之 在 日朝 不 虞弘 | 即定期監員函 車 极 公位也侯 庭 此廷 廷第 服 侯左 بخ 注咸 吾小 入鄞 叱五 有 位 弄臣 伯九 造造 日通 之倫 棘 揖 至勿 事所 臣不朝方 倫恨 也敦 也敬廷幸 男孙 Ž 序以 皆之 位卿 褻在 眳 當 之在 作弘 馬大 慢王 F 陽天 儀上 色欲 也庭 朝 夫 云子 不劳司激 帛 廷 云當 息隸屬 可 郊 恭 Ž 左 相 慢 奏虚 不 左 儀 勞 2 見 函謝因 南 罷相詔大 石 或陵 ŧ 會謂 士禮 右 面 懼三 也好 申 云言 朝 迎聘 右 胁 屠 於軍 儀 云日 舜 何當 通嘉

主謂|執臣|君禮|命當|傳升|舒注|皆介|夫大|剑 一使 鄉出聘八為承 據士 國聘以執臣君也已命所揚客使所為夫 之禮聘以之親三則官以 貌卿以承郊 御記 后聘 義禮 讓三 至致 大電夫君也電而讓廟尊 三 夫乃人璋謹致後之門讓 揖 之賤為為 觀私也使按察入不主也 至 介也紹上》 臣熟佩廟得請按 階 數期據據 見以 大 主し 食選門命事鄭 入禮 也注 利してい 國禮 私 日主 讓乃 時注 廟聘 此 之物 面 譽璋主傳也此門儀 五十 君面 私 牲贿人其富揖三三 聚 觀 食贈 廟君 見讓 揖讓 介 七 £ 私又日冬受之主主而而 北一介 子 觀君 骶食 也聘 人調 後後 面 侯又 貢 謹親主無 陳富至傅介儀 伯聘 陳富至傅介儀伯聘 聘 按禮以所 執 據也陪命北禮五禮 諸和獨為以 圭以三三三面聘介上 倭|面窗|瑞明| 執 |大讓讓讓隨禮|子公| 子史|私私|也實| 璋|客而而而馬篇男七 貢記| 觀面| 使客| 轉又| 禮後| 後後| 鄭衆| 三介

吊壁 **本则** 於玉|還重|晉使|所結 とりも 人於其之諸延至駟 二如 即意主 鳴 生五 位没於 相寫主以國陵國連 並 失幣 器 磨注璋大以季君骑 無母 聘 死禮 也失 也使 切君 輕器 觀子無東 禮 則終 之子其寡諸聘不帛 卿傳 皇夷九祖君 不则士凡 | 義于| 禮君| 侯於| 分元| 神 退退並君 私 魯庭續 定淵 觏 使餐舟上欲離 也之聘即 與以 盤板 臣美者德與玉 辭之聘 非 位 Ξ 禮 始以之注王抗李 ď. 卒 臣大用 以聘為已裹左禮諸 適 禮者夫幣此重好聘仲傳 倭 乃無之副服禮也而解表 館 復外私 忠 受選 五伯 延 乃尚交朝幣常之之還日使 聘 復畜不非以美不者 王 君西 子 注如敢禮副則敢德鄉儀不乞 支 諸 復五二也忠没不不 皮禮 忘術 國 選器 君為美注受可 弁君 舊來 吳左 圭卒也人之用也取還使好聘王傅

金万口近人 華門開詩曰脂車向馳道總轡息中華落關猶待漏 鸞臺夕宿蘭渚經彼公田樂我稷黍西濟關谷或降或 原詩魏陳王曹植應詔詩曰命彼掌徒肅我征旅 宜衣 未通車簿雲初起雨陽色始成霞塗流鋪索若城 桑抗 篇之 夥倦路載寢載與將朝聖皇 匪敢 與寧前驅舉燧 朝 會六 姓長懷永慕憂心如 卷一百五十五 酲 梁簡文帝守東平中 朝 風 文

处已四五公 警曙 袋入朝守門開詩曰風池通複道嚴駕早凌晨鐵符行 泛橘花紅誦終無取顧已自懷嗟 條息行火百姓照初暉御溝槐影出仙掌露光晞 騎吹動 筠早朝守建陽門開詩日金鬼猶戀魄 鐘聲罷隱隐禁門通遠車響北闕鄭履入南宮宿霧 、则也 道初日照相風骨徒紛絡繹賜御或西東 銀除未開 斑 輪 御定淵鑑類函 徒知仰唇藻抽群殊未申 **凰塗暗城無影睛新路不塵屯兵引畫** 何遜早朝詩曰詰 銅 龍 陳江總答 芜 欲啓扉 周 王

金人口及人 徳 北 正八表道路均四方碧空霜華净朱庭皎日光纓珮 义 清漢何殊入紫虚 陸元冬盛南至晷漏長端拱朝萬國守文繼百王至 賦得揭帝承明廬詩曰霧開仁壽殿雲統承明廬 股 **慙日用化道愧時康新邑建嵩嶽雙關臨** 憶 鐘 肱骨惟良舟楫行有寄庶此王化昌 鼓何鳇蝗文戟翊高殿采在分价廊元首乏明 引馬度紅塵餘香貂拜黻家花綬拂元除謁帝 隋煬帝冬至乾陽殿受朝詩曰 卷一百五十 牛弘奉和 洛陽圭 輪

混四方赫奕儼冠蓋紛綸盛服章羽旄飛馳道鐘鼓震 國朝未央雖無舜禹蹟幸欣天地康車與同八表書文 E) 衛噦噦鳉璁珩禮磾五瑞輯樂闋九功成 作贡普茅集來朝主黻連司儀三揖盛掌禮九賔虔重 冬至乾陽殿受朝應詔詩曰恭已臨萬寓宸居御八 臨朝詩曰條風開獻節灰律動初陽百蠻奉選班萬 廊組練暉霞色霜戟照朝光晨宵懷至理終愧撫 如壁複道遠非煙 許善心同前詩曰森森羅 唐太宗

欠人已日本 Addin 一种定湖盛新函

圭

金万七月月日 古同前詩曰七政璿衡始三元寳歷新負展延百辟垂 東户日復詠南風篇願奉光華慶從斯萬億年 景輝雕輦高旌揚翠煙庭實超王會廣樂盛鈞天既 門應啓路通籍引王侯 玉花停夜燭金壺送晓壽日暉青瑣殿霞生結綺樓重 曰百靈待軒后萬國會塗山豈如今客哲邁古獨光前 教溢四海朝宗引百川鄉洋鳴玉珮灼爍雅金蝉 虞世南凌晨早朝詩曰萬戸宵光曙重簷夕霧 卷一百五十五 魏徵奉和正日臨朝應詔詩 頏 欣

獻奇珍 徳兼三代禮功苞四海圖踰沙紛在列執玉儼相趨清 **泉屬元辰九重麗天邑千門臨上春** 浮仙掌薰風繞帝梧天文光七政皇恩被九區方陪瘞 蹕喧輦道張樂駭天衢拂蜺九旗映儀鳳八音殊佳氣 玉禮珥筆岱山隅 化歷昭唐典承天順夏正百靈警軒籞三辰揚旆旌 御九賓肅肅皆鴛鴦濟濟盛纓紳天涯致重譯西域 **岑文本同前詩曰時雅表昌運日正叶靈符** 楊師道同前詩曰皇猷被襄宇端 李百樂同前詩

人工·日山上 Alter 即定洲盤领函

Ī

朝三陸鳴珂度九門挈壺分早漏伏檻曜初皦北倚蒼 晓月通晨禁門啓冠蓋趨朝謁霜靄清九衢霞光照雙 張 充庭富禮樂高燕齒簪纓獻壽符萬歲移風韻九成 闕西臨紫鳳垣詞庭草欲奏温室樹無言鱗翰空為 増韋元旦早朝詩曰震維方月季宸極衆星尊珮 紛綸文物紀煥爛聲明發腰劍動陸離鳴玉和清越 文琮同潘屯田冬日早朝詩日假寐懷古人夙興 卷一百五十 五 贍

忝

長懷聖主恩

鄭愔同前詩曰瑞闕龍車峻宸庭鳳

金河でたる

文心日日本 Alan 御定洲疆叛函 音重軒輕霧入洞户落花侵聞有題新翰依然想舊林 戟朝光映冕旒河宗來獻賢天子命焚裘獨負津陽議 盡明光曉奏惟一經傳舊徳五字擢英才儼岩神仙去 **掖深才良寄天終趣拜侶朝簪飛舄看來影喧車識駐** 登秋日早朝詩日雞鳴朝謁滿白露禁門秋爽氣臨 紛從霄漢廻千春奉休思分禁喜趣陪 雲起嚴麻拂霧開王珂龍影度珠履鴈行來長樂宵鐘 同聲慙下玉謬此記革金 沈佺期同前詩曰誾闔連 义和崔正諫 圭

あられてんるって 章劍珮聲隨玉墀步衣冠身惹御爐香共沐恩波鳳池 長禁城春色晚着着千條弱柳垂青瑣百轉流騰繞建 言從建禮遊 籌尚衣方進翠雲裘九重閱闔開宮殿萬國衣冠拜冕 上終朝染翰侍君王 五鳳城城鸡睥睨晚宫井轆轤聲方朔金門侍班姬玉 旒日色纔臨仙掌動香煙欲傍家龍浮朝罷須裁五色 **珮聲歸到鳳池頭** 賈至早朝大明宮詩曰銀燭朝天紫陌 又早朝詩曰柳暗百花明春深 王維和前詩曰終情難人報晓 卷一百五十五

**** 華迎仍聞遣方士東海訪谨瀛 次三四年全部 御定湖縣有西 朝詩日騎省直明光雞鳴謁建章追聞侍中珮暗識令 陽官舍梅初紫宮門柳欲黃願將遲日意同與聖恩長 州春色闌金闕晚鐘開萬户玉階仙仗擁千官花明劍 公香玉漏隨 **珮星初落柳拂旌旗露未乾獨有鳳凰池上客陽春一 岑參和賈舍人早朝詩曰雞鳴紫陌曙光寒驚囀皇** 杜甫和前詩曰五夜漏聲惟晓箭九重春 銅史天書拜夕郎旌旗映間闔歌吹清 又春日直門下省早 Ī 略

もグロルと言 詩曰天仗宵嚴建羽旄春雲送色晚雞號金爐香 送變龍集風池 頭暗玉珮聲來雉尾髙戎服上趨承北極 **攜滿袖詩成珠玉在揮毫欲知世掌絲綸美池上于** 稀 醉仙桃旌旗日暖龍蛇動宮殿風微燕雀高朝罷香 御座引朝儀香飄合殿春風轉花覆千官淑景移畫 有鳳毛 報 又紫被殿退朝詩曰户外昭容紫袖垂雙 天顏有喜近臣知宮中每出歸東省 韓愈和庫部盧四兄曹長元日 卷一百五十 儒 短列侍映 朝 動 會

並絲 瑞露春翠易成陰武德殿 黄道急殿揖紫宸深威鳳迴香展新鶯轉上林小松含 原賦晉傅元朝會賦曰仰二皇之文象詠帝德乎上系 稱 集賢劉學士早朝詩曰吟君昨日早朝詩金御爐前喚 仗時煙吐白龍頭宛轉扇開青雉尾參差暫留書殿多 屈合入編闡即可知從此摩霄去非晚獨邊木有 鄭谷朝謁詩曰捧日整朝簪千官一片心班趨

東曹太平時節身難遇郎署何須數二毛

白居易和

とこう。」とこう 一一 即定耕職領函

Ē

金片四月全書 邕邑獻勢奉璋人肅其容是時天子盛服晨興坐武帳 翼翼京色巍巍紫極間闔闢天門開坐太極之正殿儼 考夏后之遺訓綜殷周之典制采秦漢之舊儀定元正 人齊列窩禮九重羣后德讓海外來同東帛戔戔羔碼 之嘉會于是先期戒事衆官允敕萬國咸亨各以其職 峨以崔嵬嘉廣庭之敞麗美升雲之玉階相者從容 次而入濟濟洋洋肅肅習習就位重列面席而立爐 卷一百五十五

憑玉几正南面而聽朝平權衡乎砥矢羣司百辟進作

禮畢陳九賓之儀成具庭燎晃以騷舉明燈爍以星布 終獻歲方始乃詔司存命掌故考憲章修法度三朝之 徳陽虞賓光於列位呼韓則於班行百僚濟濟萬國 乃月正元日節應勾芒浮祥煙而泛佳氣闢闔闔而 頌唐岑文本三元頌曰攝提改度孟陬順紀歸餘既 歌内協頌聲外揚

奏磬管鏗鏘淵淵鼓鐘嘒嘒笙簧搏拊琴瑟以詠先皇

船皇恩下降休氣上朔禮畢饗燕進止有章六樂號

「スハラ・スノニ」 一個と測量類あ

Ē

崇牙設祝歌陳則食列樽俎桂極肅而為衛戈與森以 朝 原表魏陳王曹植請赴元正表曰欣豫百官之美想見 於文物備威儀於冠帯 齊舉五輅接軫九旗揚斾羽蓋歲毅雲車晻搗發聲明 宸極亦矯首於嚴廊猶川流之歸海若湛露之晞陽張 會納貢職方司儀之職無替爐人之列有章既伸賬於 皇皇腰金鳴玉執勢奉璋内自畿甸外被要荒輸縣王 觐之禮耳存九成目想率舞 卷一百五十五 又謝得入表曰不世

金片四月全書

木目希庭燎心存泰極 官成制諸侯羣臣朝賀儀先平明謁者治禮引以次入 原杜氏通典曰漢高帝十月定秦遂為歲首七年長樂 之命非所敢思有若披浮雲而仰白日出幽谷而登喬 方東向文官丞相以下陳東方西向大行設九窗臚句 郎中夾陸陸數百人功臣列侯諸將軍軍吏以次陳西 殿門庭中陳車騎步卒衛宮設兵張旗幟傅云趨殿下 元正冬至朝賀一

たいり Lato 御定洲盛類函

孟

金分四月白電 侯壁二千 王以下至吏六百石以次奉賀禮畢復置法酒 朔 不震恐庸战至武帝雖用夏正然每月 則韋 **植常享會其儀夜漏未盡七刻鐘鳴受賀及勢** 謁者言罷酒御史執法舉不如儀者輒 周 略 侍坐殿上皆伏抑 禮曰 石羔十石六百石鴈四百 儀實 衣諸 於是皇帝輩出房百官執戟傳警引諸 皮侯 故執 用玉 壁 卷一百五十五 首 薦 首柳 為幣玉 <u>ሃ</u>ኢ 也屈 皮 以尊平次起上壽觞 石 以下百官 象卿 朔 徳以 引去奉 朝至於 壆 以所 賀正 臣

次定四重 在等 農 宴饗大作樂縣 Ð 食前司空奉美大司農奉飯奏食舉樂百官受 受賀其儀夜漏未盡七刻鐘鳴受朝賀及勢 典 不 飯奏食舉之樂百官受賜宴餐大作 ソ人 之相 坐皇 帝 上上殿 喪干 今長 則 執執 起坐 雨 不 奪 薦 此乃 質 霑 百 建 稱萬歲 御定淵 官 漢 服孝 之進 各儀 調壁 失子 百官二千 極新函 容恩 陪正 也古 舉觞 位月 也 並 坐獨 北斷 廢 旦 朝 天子 廟 贺 石 面日 御食前司空奉羹大 朝 火 ソ人 太三 D 幸 上上 常赞 蠻 公 後漢歲首正月 奉 徳 殿 陽 壁 貢 E 皇帝 有 稱萬歲舉 三支 畢 上 殿 屬 殿 不通 向 起獻 賜

有 力 定吏 拜官 月 黎食後 前執 徹將 朝 Ð 者 昌 行位 向法 有 由特恩不 宮 出中 後陛 還 司 殿 平央 吏庭 左下 狭 各宿 洛 悉 虎 中原 官 右 階石 贯 陽 金作 在坐 1) 中 庭宗 設 得 依 柱壇 前就 郎羽北室 元 為常 漢舊事其潘王不 王公 Ð 賜 將林 面错 於 魏 官作 太劉卷 位張 卿 城 文 東弓 九 官雜 在 व 帝 南立 五十 後富 賜會 校 晉武帝咸寧中定 南执 受禪 便 徳徹羽矢酒萬 五 陽樂 坐 氊 林陛 食人 殿青帷 於端門外大 虎戟 後 西以 殿謁 得 脩 周者實左 東立 朝 将右 洛 旋引 容公位戎 觐 陽宮室權 出西 ソス 為門 儀 御南 萬卿東頭 明帝 先正 北倡 史位 四既 五脛

者引上殿皇帝興王再拜坐復再拜跪置壁御前復再 官起大鴻臚跪奏請朝賀掌禮郎替蕃王奉壁拜賀謁 僕射大鴻臚各奏羣臣就位定漏盡侍中奏外辦皇帝 出鐘鼓作百官皆拜伏太常導皇帝升御座鐘鼓止百 吏皆入立其次其陸衛者如臨軒儀漏未盡五刻謁者 便坐漏未盡七刻羣司乗與車百官及受勢郎下至計 起上賀謁報又賀皇后還從雲龍中華門入詣東閣下

吹又宿設四廂樂於殿前夜漏未盡十刻羣臣集庭燎

飲定四車全書 · 御定洲 無新西

紫將軍中二千石二千石六百石奉璧皮帛羔應雉拜 拜成禮下殿復故位又替太尉公特進匈奴南單于金

乗黄令乃出車皇帝罷入百官皆坐畫漏六刻謁者引 賀引上殿如蕃王儀成禮復故位大行令賛以勢授勢 郎以壁帛付謁者羔鴈雉付太官太樂令跪奏雅樂

王公二千石上殿千石六百石停本位謁者引王請鎮

酒跪授侍中謁者奏蕃王臣某等奉觞再拜上千

歲壽百官伏稱萬歲四廂樂作百官再拜已飲又再拜

歌定四車全書 柳定洲龜領函 **伎乃名諸郡計吏前受赦戒於階下宴樂畢謁者一** 跪 飯食畢太樂令跪請進儛以次作鼓吹又跪請以次進 歌三終太官令請具御飯到階羣臣皆起授持節持節 太官令又行御酒進御前乃行百官酒太樂令跪奏登 奏請罷退鐘鼓作羣臣北面再拜出 進御座前羣臣就席太樂今跪奏食舉樂乃行百官 奏房中之歌出百官奉壽 其酒 以畫 下會 别 樂三十 **表質畫**

還本位侍中中書令尚書各於殿上上壽酒登歌樂

此. 從其事太階東置白獸鳟羣臣及諸蕃客並集各從 | 鳟飲酒 禮未明庭燎設文物充庭臺門關禁衛皆嚴有司 刻乃受朝賀升皇太子在三恪上齊因之 正朝元會設白獸鳟於殿庭若有能獻直言者則 刻皇帝乃出受賀皇太子出會者則在三恪下王 不歲 漏未盡十刻開宣陽門至平明始開殿門畫漏上水 朝而 之周 形鳟 歲周 丛盖 施 白 虎 禮有 宋因晉制無所改異唯朝 百五十五 東晉江左多虞不復晨賀 各

ニン・ラニー ニニー 甲毛州盟領函 帝與入徙御座於西壁下東向設皇太子王公以下位 壁禮畢下殿納舄佩劍詣本位主客郎從珪璧於東廂 **畢樂伎奏太官進御酒主書賦黃甘遠二品以上尚書** 門侍郎一人執曲直華蓋從至階降與納舄升座御前 奏外辦皇帝服家冕乘輿以出侍中扶左常侍扶右黃 班而拜侍中奏中嚴王公卿尹各執珪壁入拜侍中乃 施奉珪籍王公以下至阼階脱劍舄升殿席南奉贄珪 又奏中嚴皇帝服通天冠升御座王公上壽禮畢食食 咒

一级定四库 全書 罷皇帝乗與以入皇太子朝則遠遊冠乗 金輅鹵簿以 吏更應諾記令陳便宜者聽指白獸轉以次還座宴樂 邊東向尚書令以下在南方坐者悉東邊西向舊元日 關騎引計吏那國各一人皆跪受的侍中讀五條的計 下又記元日受五等勢珪壁量付所司周拾按周禮家 行與會則劍履升座會記先與天監六年記元日朝 御座南面以西方為上皇太子以下在北壁坐者悉西 御座東向酒壺在東壁下御座既南向乃詔壺於南欄 卷一百五十五

ヒニコ in lily 師定洲極類函 宰隸職今元日五等 真玉既竟請以主客郎受帝從之 军大朝觐替玉幣尚書古之家军尚書主客曹郎既家 殿前皆嚴兵百官各設部伍而朝宮人皆於東堂隔紛 尚書僕射沈約議正會儀注御出乗與至太極殿前 舄升階尋路寢之設本是人君居處不容自敬宫室 與至太極階仍乘板與升殿 漢氏則無小車升殿請自今元正及大公事御宜乗 並集儀注令僕以下悉公服監之設庭燎街闕城 陳制先元會十日百 四十二

多定四月全世 階 從 アノ 刺质 疏 尺詺 百 官 上 而 史 下 = ᇚ 祭 觀 開 勲 太尺 pp 白 宫 ㅁㅁ 國 守雌 14. ア人 寫 PE 獸 ど人 下 安黄 公 詔郡 ア入 鐏 下 侯 從 下 既 國 否塗 端 無 及飾 九 伯 自 流 正使 門 品 會 籍 散 餘 外 段上 亦 **PD** 寫 外 外 アス 寫 九 價 宣 侍 多 品 上 公 参詔 書 侯 中 依 及 但 使諂 出 ア人 Ð 五 善 奉 梁 上 絳 宣 人腈 會 及 + 鰛 與 特 衣 禮 詔 五 惡 Ð JE, 會 命 慰勞 者 使 侍 以枚 云 中 之官 人 亦 告長 間 品 得 郡 此 北 刺二 疾魁 齊 入 刺 苦勞 流 火人 國 史尺 觏 史 外官 使 下 元 五 又郡 寸 並 是 正 正 尺詔 班國 大 者 升 牓 = Ð 吏 五 饗 PP PP 在

たこう le 御定洲 極類 画 位 及冬至文物 宜 司奏行事記乃出西房坐定羣官入就位上壽記 再 有司奉 拜皇帝舉酒上下舞蹈三 **[iQ** 不 諸州表尋官在位者又拜而出皇帝入東房 充庭皇帝出西房即 黄奉|名生 詣 宣内末以率擇 西階解劍升賀降階帶劍復位 詔外 捨自 勞涠 本牧 桑 諸清政沒無正 郡紀之有 稱萬歲進食食果奏 所以烦歡 上綱 疾自 御座羣官客使人 乾鼓 宜給 三徭 護四 日賦 罷所 察日 **之長** 7 吏 制 而

金分四月百百 自今以後冬至宜以次日受朝永為恒式至六載十二 伎宴罷皇帝乗與以入 月五日甲子冬至敕伏以昊天上帝義在尊嚴恭惟祀 明王皆以此日朝萬國觀雲物禮之大者莫逾是時因 每用冬至既於是日有事園丘更受朝賀實深乾惕 自今以後冬至日受朝永為恒式至天寶二載十 敕諸道差使賀正表但送省司又不同進於禮全乖 奏曰伏以冬至一陽始生萬物潛動所以自古聖帝 息一百五十五 唐開元八年十一月中書門

月

中二年十一月敝以冬至日受朝賀 知其表直送四方館元日仗下後一時同進永泰二年 五鐘皆應皇帝农冕御輿以出即御座在位官拜舞太 官俱入就位侍中版奏嚴辦鳴鞭宫垂撞黄鐘之鐘右 五月朔冬至大朝會其日將士填街列黃麾仗於庭百 秦稱賀中書今門下侍郎奏諸方鎮表及祥瑞户禮 月的冬至今有司祭南郊復於含元殿受朝賀建 增宋會要元日

白今應賀正使元日隨京官例序立便見通事舍人奏

欠かり日 Ainto 御定測極新函

金河 巴尼 台灣 再拜退其登歌則甘露嘉禾瑞木成文之曲宫垂則奏 千萬歲壽三爵而起侍中奏解嚴所司承吉放仗百僚 爽入朝奏班齊皇帝升殿坐契丹舍人殿上通訖引 帝服通天絳紗御與以出百僚拜舞太尉執爵跪進稱 部奏諸州諸番貢物司天監奏雲物祥瑞禮畢撞殺實 正安乾安之樂舞則盛德升聞天下大定酒行三周皇 鐘左五鐘皆應仗列如舊以俟上壽百僚朝服立皇 遼穆宗即位正旦朝賀臣僚并諸國使昧 卷一百五十五

慶與公等共之各人 替謝宣谕拜舞蹈五拜 替各祗 ノハリン ノンシー 一一一 中を用屋局玉 拜畢替各祗候引契丹漢人臣僚并諸國使東西洞 舞蹈五拜鞠躬平身引親王東階上殿欄内褥位 跪自通全街臣某等祝毒的俯伏與退引東階下 班 位舞蹈五拜畢鞠躬宣徽使殿上鞠躬奏臣宣答 臣僚東洞門入引漢人臣僚并諸國使西洞門入合 引出引 班首以下聽制記再拜鞠躬宣機傅宣云履端 班首西階上殿奏表目記教坊起居賀十 四位 候

笏執臺琖殿下臣僚分班皇帝飲酒教坊奏樂殿上下 答稱有肯親王以下再拜如初儀傅宣云飲公等毒酒與 **抒笏轨臺琰進酒記退復褥位置臺琖出笏少前俯伏** 門入合班再拜替進酒引親王東階上殿就欄内稱位 與殿下臣僚皆再拜鞠躬俟宣檄使殿上鞠躬奏臣宣 自通全街臣某等謹進千萬歲壽酒俯伏與退復褥位 臣僚皆拜呼萬歲替各祗候樂止教坊再拜皇帝卒飲 公等内外同慶舍人賛謝宣諭如初替各祗候親王措

と、Jone Mitio 一個定湖極類函 小起居各復位立舍人引皇太子并臣僚使客合班 皆再拜引皇太子升殿褥位槽笏棒残盤進酒皇帝受 東階下殿復位鞠躬再拜替各祗候分班引出皇帝 置於案皇太子退復褥位轉盤與執事者出物二閣使 齊揖入欄子内拜跪致辭云元正啓祚品物咸新恭惟 至丹墀舞蹈五拜平立閣使奏諸道表自皇太子以下 親王進受残復褥位置臺踐出物揖臣僚合班引親王 金元旦聖誕上壽皇帝陞御座鳴鞭報時畢殿前 聖

母 反 四 母 一百五十五 皇帝陛下與天同休岩聖節則云萬春令節謹上壽卮 皇太子受虚残退立褥位轉盤残與執事者出物左下 等內外同慶詞畢舞蹈五拜齊立皇太子精勞執盤臣 榎新上毒與鄉等內外同處聖節則曰得鄉毒酒與鄉 僚分班教坊奏樂皇帝舉酒殿上下侍立臣僚皆再拜 殿下臣僚皆再拜宣徽使稱有制在位皆再拜宣答曰 殿樂止合班在位臣僚皆再拜分引與宴官上殿次引 願皇帝陛下萬歲萬歲萬萬歲祝罪拜與復稱位同

宋國人從至丹墀再拜不出班奏聖躬萬福再拜唱有 則坐宴侍立臣皆再拜進酒官接琖還位坐宴官再 聞曲時揖臣使起再拜下殿果牀出至丹墀合班 從人再拜坐食入七琖曲將終揖從人立再拜畢 坐行酒傅宣立飲訖再拜坐次從人再拜坐三境致 從 揖臣使并從人立誦口號畢坐宴侍立官皆再拜坐 酒食又再拜各祗候平立引左廊立次引高麗夏 如上儀畢分引左右廊立御果牀入進酒皇帝飲

之二一口 LILT 一种定洲股频函

罢

金段四月 全書 山呼各分立俟后妃諸王駙馬以次賀獻禮畢典引 期三日習儀於聖壽萬安寺前二日陳設於殿庭至 宴舞蹈五拜替各祗候分引出 一侍入啓皇后出閣陞輦至殿東門外两宮升御榻 相以下起居拜舞叩頭山呼侍儀使請丞相進酒樂 三司晨報時難唱畢尚引引殿前班起居拜舞叩 昕皇帝出閣陞輦鳴鞭三至大明殿外侍儀使尊駕 引進使同内侍官引宮人擎執導從入至皇后宮庭 **基一百五十五** 元史元正受朝儀前

頭 章官等齊跪宣表目讀禮物舍人跪讀禮物目拜舞 四品以上賜酒殿上典引引五品以下賜酒於日精 |皇帝皇后萬歲壽宣徽使答曰如所祝尚醖官以 山呼僧道者老外國番客以次而賀禮畢大會諸王 止禮部官押進奏表章禮物二案至橫階下進讀表 丞相丞相搢笏奉觞北面立教坊奏樂丞相進酒畢 駙馬大臣宴饗殿上侍儀使引丞相等陞殿侍宴

工登歌曲終丞相祝賛曰溥天率土祈天地之洪福同

しこしり、主 ここう 一一一 即定消遣叛函

至

金 反 四 库 全 書 華二門之下宴畢鳴鞭侍儀使導駕引進使導后還寢 已習儀及具服官員許入班其餘便服人員止於午門 如來儀 **埠左右木柵之上文武百官照品序立侍班二十六** 殿二十四年令禮官置百官朝班序牌大書品級列 行禮執事官於華蓋殿行禮披甲帶刀侍衛之人免 許於寺觀行香其萬歲牌不許復設凡遇大朝賀除 五府六部等官於殿内侍立今皆入班奏事止於華 明洪武元年令正旦冬至及壽旦各衙門 表一百五十 Ŧ

前 マニコラ重 增 年定萬毒聖節百官朝 殿石 禮古 慶會 朝 也之 亦與正旦冬至同但鴻臚加設玉帛案二於殿内簾 稱以 萬上 脱薛 班 正冬至 序立 構造 歲升 漢 會南國史 2: til 臺 元 儀 晉禮 漠 之亢 Ø 七晉 朝 刻書 漠觀 大正 賀二 脚定淵 祥仗 體慶 鐘禮 瑞 鳴志 煙詩 温频函 受 受漢 雪 **賀儀正旦冬至同後嘉靖** 雉曈 賀儀 朝 扇瞳 散南 為史 開初 公有 受張 六本 侯正 B 朝 齊 以會 出紀 有 野 辛盤 下禮 힑 上正 傅 悦月執正遂 今 元 以朔 势旦 請 春丁 華) 時 為 來夜 Ø 哭 庭漏 今通 瑞雪 未 布 年定 降 天 歸 Ø 政宫 雙立 盍

萬四 献職 喜日尚屋 火太 晨洞刻七 五絲 動 百刻|辛勝 國海勢量日詩書臣城官 四月全港 奉后色天設朝宰皆 充 官調盤就 庭奉之 璋德|迎顏|御賀|相列 赐 人避春入幄而至燭未禮壽晨 樺 膺 萬陽於會火至明儀酒賀 肅海 其外物十太前城於庭志調畫燭 客來知官極一則五燎隋之漏日虚 陪 同 燕延 朝 殿日撲六段羽畫上 萬 脂 避倦! 滅百文間賀三 賀| 受| 國亨 色新百 中 避炬物元 子後 朝歲五十 華 之謂 充會 曉 幸漢 圖 籍幕傳 昭 天朝五 之庭禮 PE 雅骨棒賀 陽禮朝班會玄志晉 |歌書|燭詩| 立 殿儀|會固萬朝| 太 禮 百樂香元 極 仗 同東國會 殿元國華志 軒正 漢都 咸賦 干 官 志唐|冬史|照上| 公月京賦亨定 元書至補曉壽賀 御元天春 各元 喜 郎旦子正以正源楊正禮立云十奏 未夜 将天受三其之一元巨受樂|休中|門个|畫漏

人已马耳台雪 其臣 春天 上天 設殿 受而一樂至 席能 地千同 百用 賀朝 郡夫 賀謂 秋休 花漢 则服 異之 以説 計百 讀 萬臣 燈儀 請古 百排 吏官 正 益經 令 通者 歲等 東樂 官冬 皆各 义 至 布 壽謹 上惟以仗 觀陪 者更 御定洲疆狗 朝 戴相 庭朝 政 閣冬次百 福門正就官僚賀 休 賀 憑詰 朝见 氣 惟拜會坐皆 遂難 注受 = 氤氲 新 表為酒依 排 奪義 説 而然行朝 JE 五有 d 元禮 仗 經 巴如五服 + 正祭 不 風歐 李 易陽 餘通 首志 不太如受風 机 祚皇 幕詹 常大朝土 景帝 以禮賀歲 李 設 横元 旦後 華 福受 樂祭謂時 漢 臺目 朝 燈侑祀之記 晚陪惟羣 書 贺 元晋 食太 排元 咒 光戴 休早新臣 會書 凡常 正日 成為 氣朝 陸朝 今傳 文禮 燕作仗天 亂詩|下賀| 昌志 氲和與日 享雅冬子 羣正

金万里是人 書領寬大轉四海之仁風於萬斯年自今伊始臣父違 增表明李梅亭賀元會表曰元會藏儀仗入龍樓之晓 歲之儀天子萬年增行泰元之策永膺多福數錫族民 帝陛下東乾之健出震而亨孝備愛欽浹三宮之和氣 恭惟皇帝陛下道體泰亨德儀震動太歲在酉民益富 稽東作之平 班著俶布潘條春見曰朝徒想北辰之拱閏餘成歲敢 **陬占象歷新鳳紀之編桑夏來同堪與協慶恭惟皇** 王雅軒賀元正表曰春王正月肇稱獻

次主四車 全事 御定州級新西 陸之規增受紫壇之英臣望京浸遠戀闕滋深周衛設 参旗我司干而不試其風畢雨被豐澤以惟均肇承養 九實之爐莫陪下列甘泉受羣吏之計惟詠昌期 天如春澤物恭惟皇帝陛下儲神蠖濩受命穆清井鉞 表口正月始和著於甲令三朝大會盛在寅杓惟聖憲 之孟陬奉寬大書願布楚鄉之農事 趙南塘賀元正

堪堪之棋臣承惠守藩馳心戀闕讀離騷賦既逢湘水

於酒類体命用申化愈張於琴瑟嘉與林林之衆茂臻

るグセスとで 表曰豬杓插子復初見於天心玉思標冬觀首書於雲 帝陛下聰明淵懿剛健粹精問寢龍樓謹冬温之定省 梅亭賀冬至表日七年而得攝提契元封之至日八 物散騰四表慶輯九重恭惟皇帝陛下發育功深裁成 氣臣宅西乗障拱北傾心自顧孤桐難旅周官之琴瑟 疏恩鳳檢廣春育之涵濡迎神策於泰元薰嘉生之叶 之合前殿闡太極之治朝睿知有臨福禄來萃恭惟皇 一線當圖蜀郡之榜標 卷一百五十五 陳篔牕代皇弟賀冬至

宇 大已 DA AIME | 御定消極有函 原 六幣 駘湯屬唐宫之添線 故以 福 宙臣切陪近屬放際大君喜溢漢鶴共仰龍顏之 妙 也帛 鎮圭桓圭 綿周則無同麟趾之阜 御圖六稔久迎化日之舒長課歷萬年又兆陽 贄 琮 五 錦 Ŧ. 待周 玉璜之小 三以使行 稱舜殿之垂裳不老乾坤無 安 謹此 案六六邦 桓大 圭宗五物 幣國 侯伯玉者 圭宥 執云諸以以客 信王侯和 主執五諸 璋禮 伯鎮瑞侯以籍 珪之皮以

女婦 生倫 執 頭 壁注 教躬 多分口足人言 五 勢 舰 服也 勢 奉 色云 壁 圭 稱王 執庸 天候 厲之 瑞 不用也雉以之繪皮男 子朝|二君| |過幣|夏沙||將按||也帛||執又 不智生執 三 榛御用用其鄭 者蒲云 悦以也黄 帛 栗孫 勝死厚注儀束璧子 着士三輯尚東日備者意云禮帛 執 下壁執帛飲書脩男腐為也勢云而 大直雉也也賴以勢臭其士所士表了派 夫數一卿 五告大也不賢執相以 執 以千死執諸瑞度者 可用以见皮皮 應而也羔侯既也玉 地至之為 帛 百五十五 飾皮 大世月男帛 章 者者禮之 之幣 | 子乃女小||物||取君|||新|||士 注萬 布 之於無以至傳有所夏皮執周 繁本|維|张羣|别章|公曰|時尊|用帛|皮禮| 之末| 典史| 執后| 也物| 使哀| 别敬 腒如 帛云 索不日顏 元注 也宗姜有必左今鄭孤

誘成取见原 亡有|辭秦|執不| 之列其别致 國幣玉伯玉趨 以也婦必 敬 執 大為注使者客 勢 食士不有乃穆 褻 **夫煩大西則彌** 奇以輕勢執天 不請器气性感 之野温勢白子 可絕建桁舒注 不 趨 以雞不者主傳 以其職來武不 圖禮也聘舉趨民禮 威為|重質|元云| 申 畢 勢 也 也 壁 天 存的不裹前主無記 風死者 大致以子 而從一欲仲曳慎相曰 副不取大巴見實 草之與群 踵也聚無 可其以質致于 歷皇|秦玉| 注辭 襄 代前通曰 禮不 畜不鴈誠故西 之諡好重 仲 執相 也可势也也王 争 制數 辞 教接 之 者公 取侯 晋以 日 也無 王 子其以致 書大 禮 鬯 墨玉 誠 晉 文器 凡不 凡曲成為云白 帝寡 執相 文 絶 **勢禮|行勢|凡虎** 以名 势见 幣 天云|止者|臣通 聘取 者欲

础 無所其其類半至等以周之神 而子 執責守不 馬取也諸 等禮 用退电 脯 玉寶 時飛 取其 所臣 邦大 鄭鴰 俗瑞為 而邊其魯執鄭國宗 注侯 鄭曲|者勢| 動雞候而以注鄭伯子 注禮所鄭也取時不自云注職 主 之卿 而失致赞云云划儀言羔 婦云|貴注| 人婦野各落行其也之等以上禮至大 無人者以 國 言| 猶玉| 寸天| 也夫| 外之者其 贵 轨 齊作半子天應 事對大所實維 執 也六 厚丰一子士百品 見棋 成贵謂文 執 羔 半與無雉五十 瑞 轨 以樣獻野之大難 寸爆客廣五 禽 羞脯白為藩行為又 鴈 博智禮人 物价准制國人工云執义 作三九以之 白則世職商士馬云 寸寸|电势| 六 贄 鹿藩 一云 執執鄭卿 為匹 是國見九雞雉注執作又王 势童 作者子 也之各州注册云羔六云 以之為人法大勢以 六也委 名 瑞 其外取執小夫以禽 享勢

出門已非於於果 為成君有晉 一之使璋禮維注左纓為地線鎮周 就一執注千勢籍不主馬禮也上」主禮 也匝|璋臣|石公|繅上|受人|繁之|繅鄭|繅典| 為六壁籍公勢再纓處雜注籍瑞 百中九桓 于拜 也用 采謂 五職 王 |石二|寸主|堂受|拾時| 釋|采云 以来 馬千 上對為物 五王 藻三四石 觐人再射相野 就措 注左 就 百二 禮 君拜 構禮 外以大 藻傳注周以干之凱禮送 而無朝主 所曰線禮下石廣禮然勢 費日執 堂姆鱼 以藻木公雉羔 表以 節 幸三 璋 為以執侯 賓禮 也軍 萬儀 美 衣彩 圭朝 元 韋 壤朝 捧士 鄭 中 云 禮 火人而三 字聘 色衣真康 幣相 注無 莫 觐 王入见云勢主禮 網直就順有

御 定 淵 鑑頻 函卷一百五十五 其入以大畫繪 **勢一**不終也注 於拜終辭 受教 門正|各其 卷月 外禮凡勢 於 日送不於 च ब 五十 某再|答其| 庭 也拜而入受再五 使奠受也教拜 某實唯一於送 還也君拜庭贄 勢賞 於其 還對於門 臣辱 爾實 大退

夫送